

2024年度 第2四半期 決算説明会資料

長瀬産業株式会社 (証券コード:8012)

2024年11月7日

これからも、
じぶんらしく。
じぶんらしくなく。

エグゼクティブサマリー

2024年度 第2四半期決算

-  Prinovaグループは製造業の厳しい状況が継続、貸倒引当金の計上もあり減益
-  ナガセヴィータは最終消費地である中国での需要低迷による化粧品向け機能性素材の販売が低調だったことにより、減益
-  半導体業界や電機・電子業界等の緩やかな回復により、機能素材や加工材料、電子・エネルギーセグメントの商社業が好調
-  ナガセケムテックスが製造する生成AI等のハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が好調
-  改善領域への取組みとして、赤字幅の大きかった米国のカラーフォーマー事業から撤退、営業損失削減に寄与
- ROIC経営を追求し収益性が向上、売上総利益率:17.5%→19.2%へ改善

2024年度 通期見通し

-  Prinovaグループの製造業は想定以上の低調な推移が下期も継続する見込み
-  生成AI等のハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂販売は、下期も好調を見込み、ラインを増設
- 事業毎に好不調はあるが、連結全体で見通しは修正せず、過去最高の営業利益を見込む（セグメント別の見通しは修正あり）

中期経営計画 ACE 2.0 について

- 成長戦略における取組み
- 株主還元の変更(2024年度の配当を増額)
- サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し

各セグメントの事業環境



業界	24年度通期に対する当初想定		上期の動向		下期の動向		セグメント
塗料	自動車用途は引き続き堅調だが、全体として概ね横ばい		自動車・建築用途ともに伸び悩み、全体として概ね横ばい		国内自動車メーカーの挽回生産あるもアジアは低調は継続見込み。		機能素材
カラーフォーマー	供給過多の状況は継続し市況は低迷が続く		米国におけるカラーフォーマー事業から撤退。国内事業も縮小均衡。				
半導体	緩やかに回復し、年後半は本格的に回復、ハイエンド向けは好調継続		カテゴリにより回復にばらつきがあるが、ハイエンド向けは需要が好調		ハイエンド向けはより一層需要が高まる		電子・エネルギー
ディスプレイ	前期比で需要は回復		テレビパネルの国内生産が終了、海外は前期並み		上期並みを継続		
スマートフォン	前期比で伸長見込み		ハイエンドは前期比好調。ミドル・ローエンドは中間在庫の影響で低調推移		上期並みを継続		加工材料
OA・ゲーム	全般的に需要及び樹脂市況は緩やかに回復		需要及び樹脂市況が緩やかに回復		3Qまで好調継続、4Qは在庫調整局面		
自動車	緩やかな自動車生産台数の回復が継続		米国は堅調だったが、国内やアジアで自動車生産台数が減少		国内は緩やかに回復するが、アジアは厳しい状況が継続		モビリティ
医薬	需要は増加しているが、先発薬の特許切れ等もあり原料販売は減少		先発・後発薬ともに全体では若干苦戦も、当社取扱品への影響は軽微		上期並みを継続		生活関連
化粧品	全体として需要は回復傾向継続		中国での最終需要伸び悩みにより低調推移		上期並みを継続		
フード	米国市場における需要の回復傾向は継続		想定よりも需要の回復は鈍く、米国市場では市況も低迷		米国の需要回復は引き続き鈍いが一部の市況に緩やかな回復をみこむ		

一過性損失等を除く、NAGASEグループの事業環境(必ずしも一般的な業界動向とは一致しない)

目次

■ 2024年度 第2四半期決算概要及び通期見通し P5～24

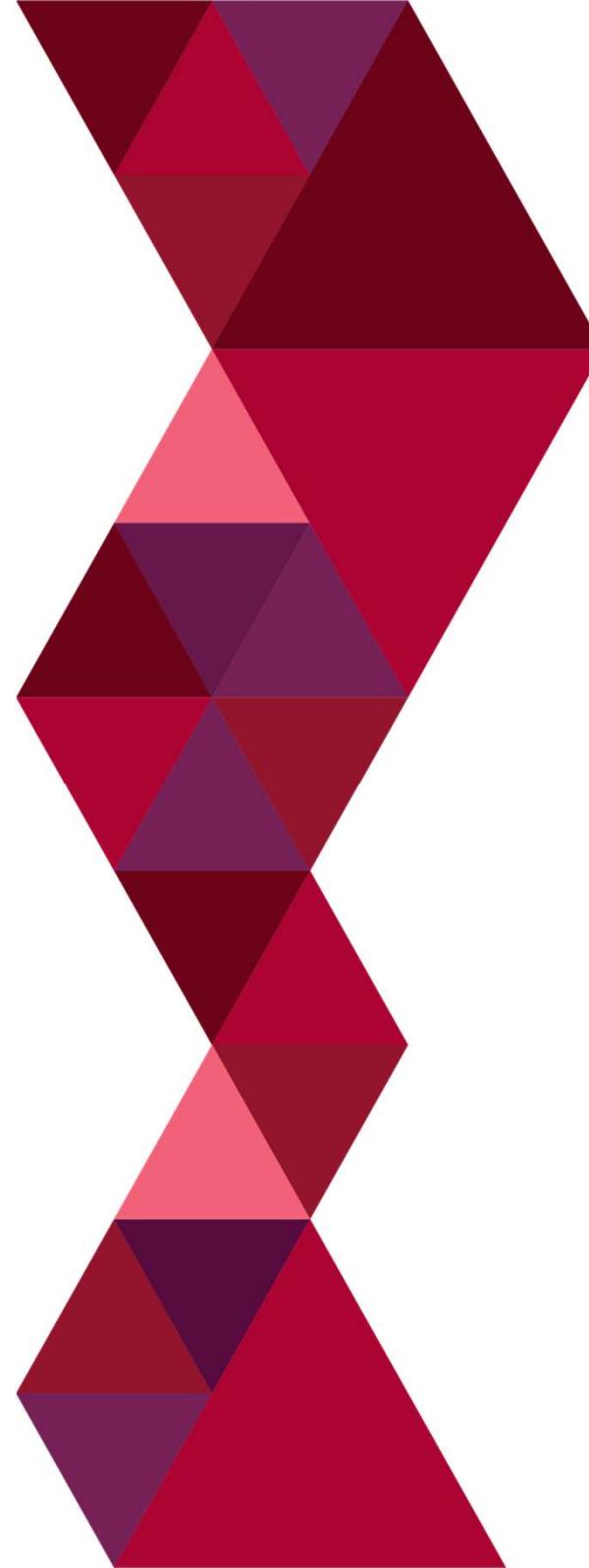
■ 中期経営計画 **ACE 2.0**について P25～36

<参考情報>

- ✓ 再掲:資本コストや株価を意識した経営 —2023年度期末 決算説明会資料より—
- ✓ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移 —その他・全社配賦前—
- ✓ 2021年度～2023年度の主要なキャッシュイン・アウト実績

2024年度 第2四半期決算概要 及び通期見通し

■ 連結損益計算書	P6
■ 所在地別 売上総利益	P7
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P8
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P9
■ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P10
■ セグメント概況	P11~P15
■ 主要製造子会社概況	P16~P18
■ 連結貸借対照表	P19
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P20
■ 2024年度 通期業績見通し	P21~P23
■ 株主還元状況	P24



連結損益計算書

- ▶ 第2四半期累計での売上総利益は過去最高となり、全事業セグメントにおいて売上総利益率が向上
- ▶ 物流コスト上昇を受けた販売費や人件費等の一般管理費が増加したが、営業利益は第2四半期累計で過去最高となり、営業利益率も向上
- ▶ Prinovaグループの製造業が厳しい状況だったものの、連結全体としては通期見通しに対し順調に進捗

(億円)

	2023年度 第2四半期	2024年度 第2四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	4,501	4,809	307	107%	9,400	51%
売上総利益	788	921	132	117%	1,800	51%
<利益率>	17.5%	19.2%	1.6ppt	—	19.1%	—
販売費及び 一般管理費	644	710	66	110%	1,435	—
営業利益	144	210	65	145%	365	58%
<利益率>	3.2%	4.4%	1.2ppt	—	3.9%	—
経常利益	142	202	60	142%	352	58%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	102	159	57	156%	280	57%
US\$レート (期中平均)	@ 141.1	@ 152.8	@ 11.7 円安		@ 148.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.7	@ 21.2	@ 1.4 円安		@ 20.0	

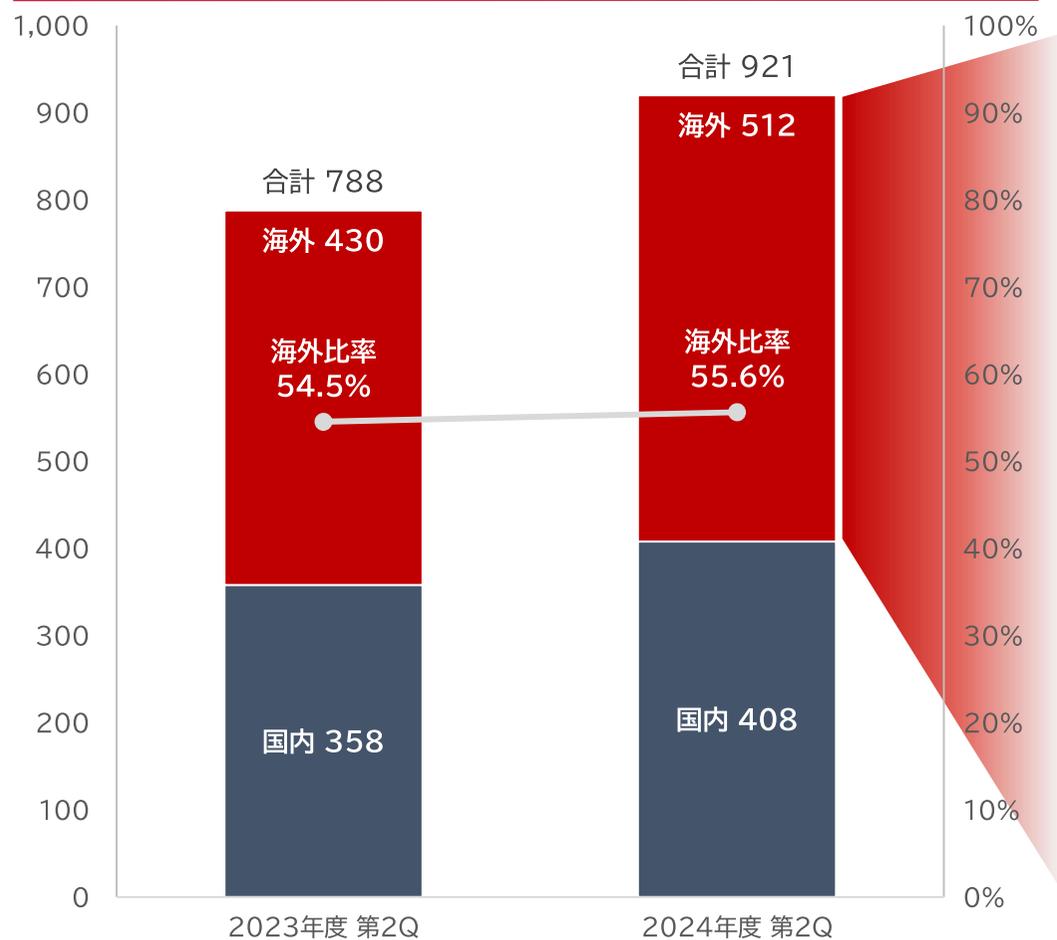
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2023年度 第2Q △1,320億円 2024年度 第2Q △1,355億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+44億円 【営業利益】+7億円

所在地別 売上総利益

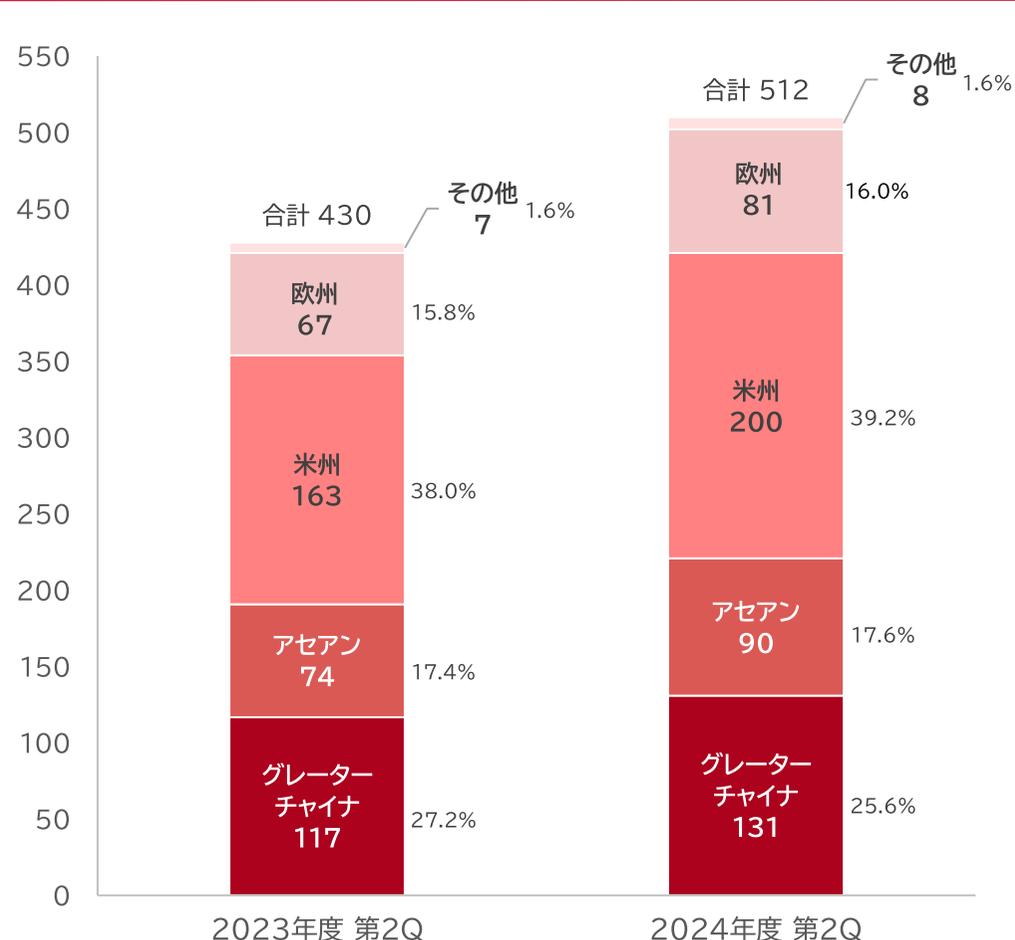
- ▶ 国内外ともに増益
- ▶ 国内は主に半導体業界向けの原材料や変性エポキシ樹脂の販売増加により、増益
- ▶ 海外は円安による影響に加えて、主に欧米における食品素材販売や、アセアンにおける樹脂販売の増加により増益

国内・海外売上総利益(億円)



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含む

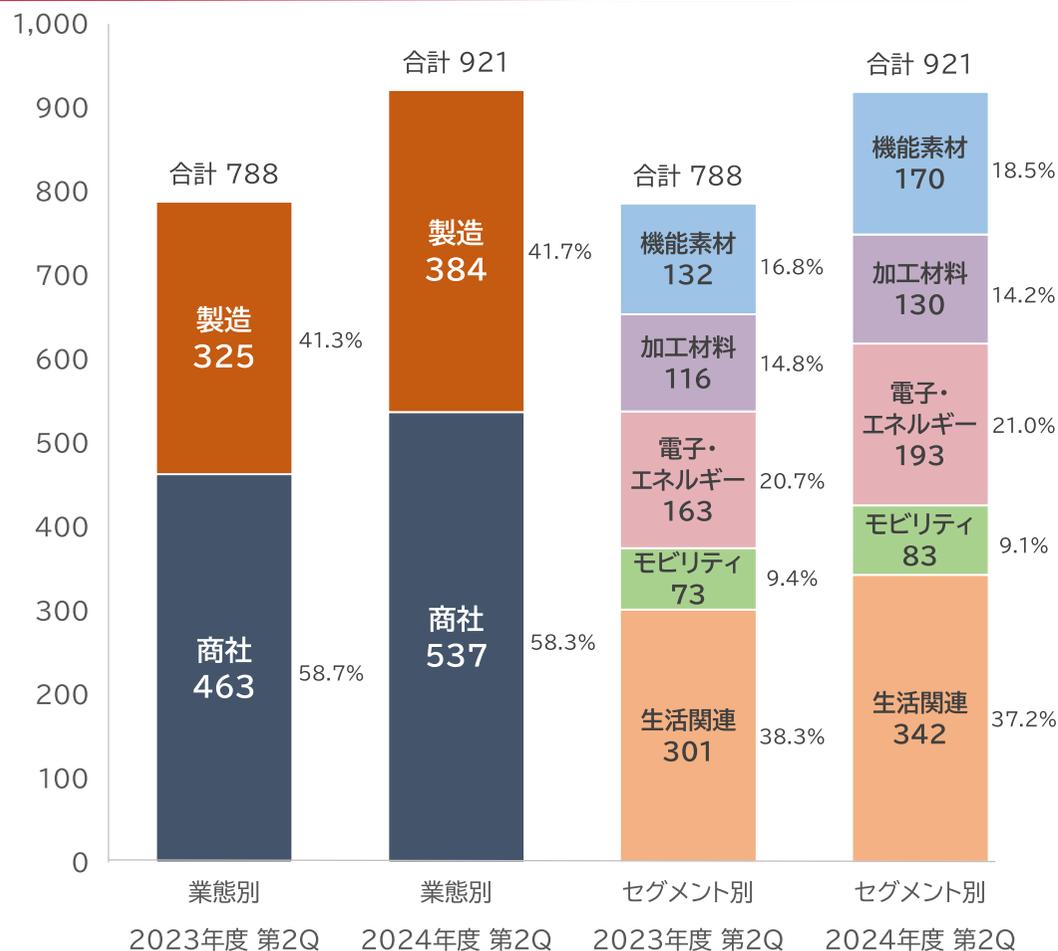
海外売上総利益の地域別内訳(億円)



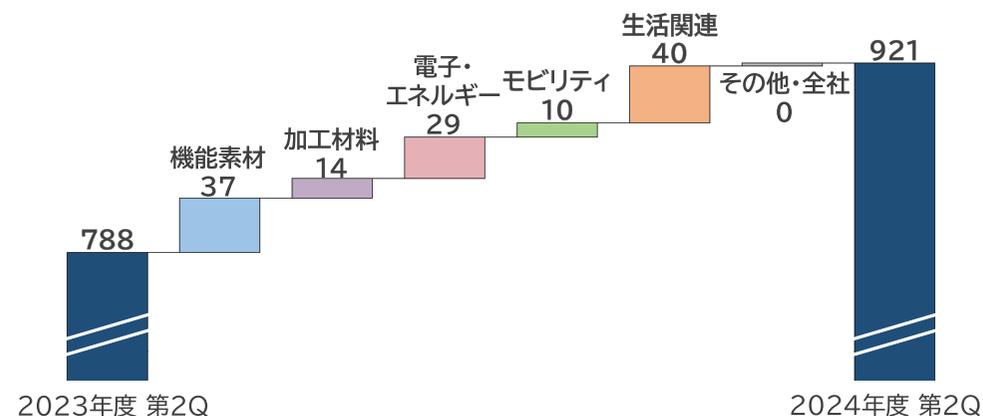
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 商社業は半導体業界や電機・電子業界等の緩やかな回復により、機能素材や加工材料、電子・エネルギーが好調に推移し、約74億円の増益
- ▶ 製造業は生活関連におけるPrinovaグループの食品素材販売増加、機能素材におけるカラーフォーマー事業の損失削減、電子・エネルギーにおけるナガセテムテックスの変性エポキシ樹脂販売増加等により約59億円の増益
- ▶ セグメント別では生活関連、機能素材、電子・エネルギーセグメントが大きく伸長（詳細はセグメント概況にて説明）

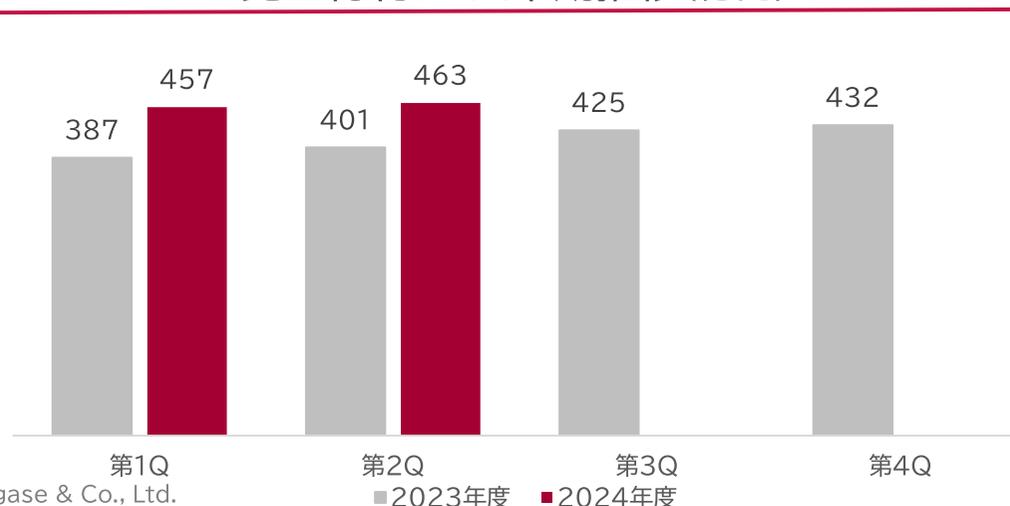
業態・セグメント別 売上総利益(億円)



セグメント別 売上総利益 増減(億円)



売上総利益 四半期推移(億円)

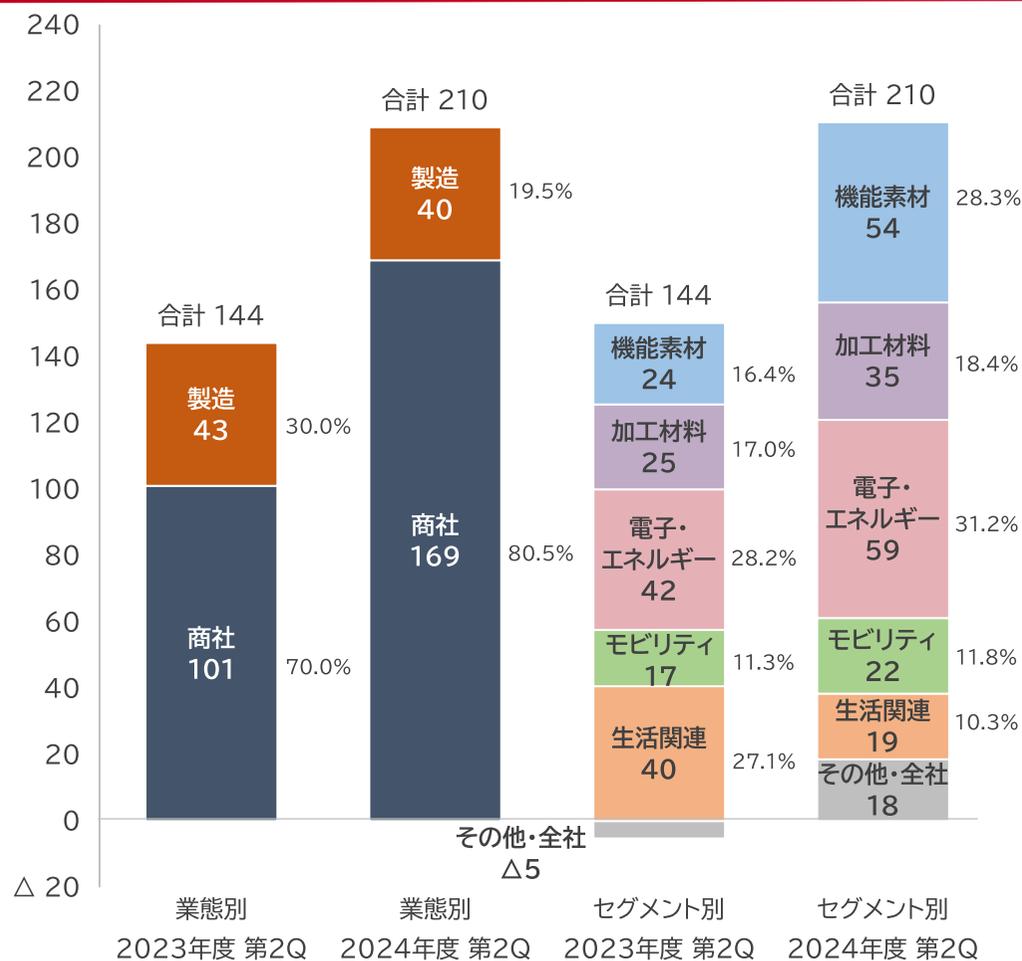


※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

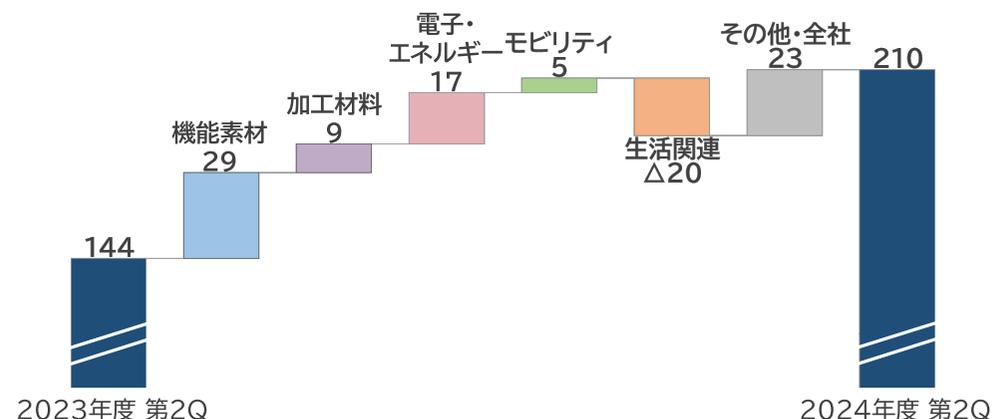
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 商社業は売上総利益の増加に加え、数理計算上の差異の影響により約68億円の増益
- ▶ 製造業はナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂関連の販売好調やカラーフォーマー事業の損失削減等があったものの、Prinovaグループの減益による影響により、全体として約3億円の減益
- ▶ その他・全社は主に数理計算上の差異の影響により増益
(退職給付の数理差異:2023年度通期 約9億円の費用、2024年度通期 約35億円の収益 四半期毎に均等按分し計上)

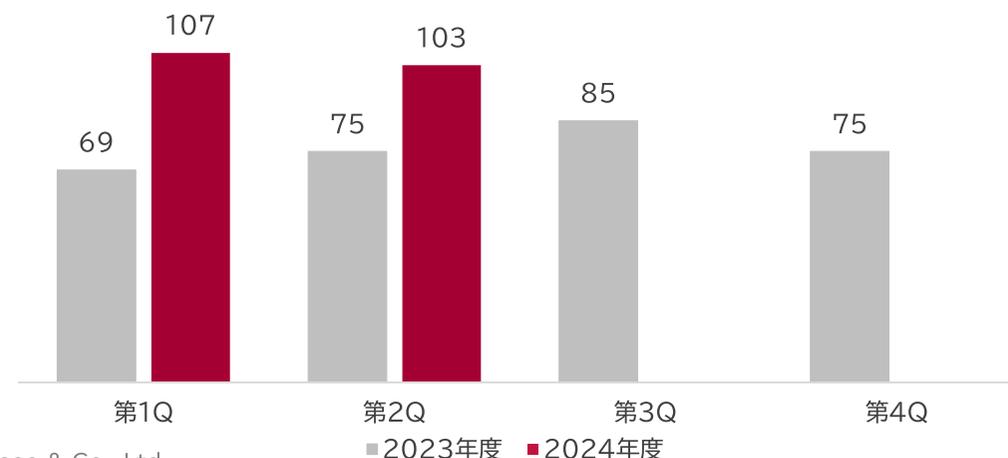
業態・セグメント別 営業利益(億円)



セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益 四半期推移(億円)



※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

- ▶ 売上総利益は2023年度からの好調が継続
- ▶ 第2四半期の営業利益は、製造業はPrinovaグループが低調に推移したこと等により第1四半期を下回った一方、商社業は第1四半期に機能素材で計上した一過性利益の影響があったものの好調継続

四半期実績							第2四半期 累計実績	(億円)	
			1Q	2Q	3Q	4Q		当期見通し	進捗率
売上高	当期	2,392	2,417			4,809	9,400	51%	
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	4,501	9,001		
	増減率	6.8%	6.9%			6.8%	4.4%		
売上総利益	当期	457	463			921	1,800	51%	
	前期	387	401	425	432	788	1,647		
	増減率	18.3%	15.3%			16.8%	9.3%		
<利益率>	当期	19.1%	19.2%			19.2%	19.1%		
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.5%	18.3%		
製造	当期	188	195			384			
	前期	165	160	183	185	325	695		
商社	当期	269	267			537			
	前期	221	241	242	246	463	952		
営業利益	当期	107	103			210	365	58%	
	前期	69	75	85	75	144	306		
	増減率	54.3%	37.1%			45.4%	19.2%		
<利益率>	当期	4.5%	4.3%			4.4%	3.9%		
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.2%	3.4%		
製造	当期	24	16			40			
	前期	26	17	25	21	43	91		
商社	当期	83	86			169			
	前期	43	58	59	54	101	214		

※ 製造は製造子会社の合計値

※ 商社は長瀬産業および販売子会社の合計値に加え、その他・全社、連結調整を含む

※ 2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

セグメント概況 機能素材

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 塗料原料の販売は自動車用・建築用ともに横ばいだったが市況の上昇により増加
 - ・ 半導体材料の原料販売が増加
 - ・ カラーフォーマー事業は米国での生産停止に加え、日本の製造拠点の事業整理や効率化により損失削減
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		第2四半期				(億円)		
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	当期見通し (修正後)	進捗率
							前期実績	
売上高	当期	405	388			794	1,588	50%
	前期	364	357	375	370	721	1,468	
	増減率	11.4%	8.7%			10.0%	8.2%	
売上総利益	当期	88	81			170	326	52%
	前期	64	68	73	75	132	281	
	増減率	37.8%	19.9%			28.5%	15.9%	
<利益率>	当期	21.8%	21.1%			21.4%	20.5%	
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	18.4%	19.2%	
製造	当期	6	6			12		
	前期	1	1	2	3	3	8	
商社	当期	82	75			157		
	前期	62	66	71	71	129	272	
営業利益	当期	29	24			54	86	63%
	前期	10	14	19	17	24	61	
	増減率	197.2%	67.7%			120.4%	39.6%	
<利益率>	当期	7.3%	6.3%			6.8%	5.4%	
	前期	2.7%	4.1%	5.1%	4.8%	3.4%	4.2%	
製造	当期	2	3			5		
	前期	△3	△2	△2	△1	△5	△9	
商社	当期	27	21			48		
	前期	13	17	21	19	30	71	

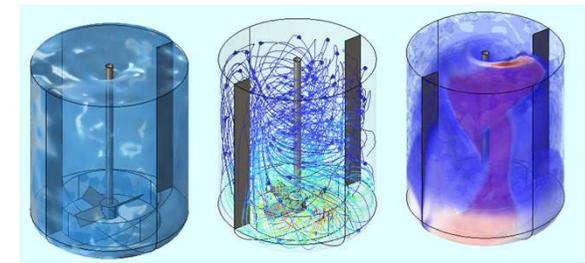
【注力施策】

機能化学品事業部

- ▶ グローバルな調達力を活かした石化産業や市場の変化を捉えたビジネス機会の獲得
- ▶ サステナブルな素材やソリューションの提案
(生分解性バイオSAP、化学品共同物流マッチング、ミキシングコンシエルジュ等)

スペシャリティケミカル事業部

- ▶ 市場成長が見込める半導体業界向けケミカルビジネスの拡大
- ▶ フロー合成、MOF等、ユニークな技術を活用した事業創出



ミキシングコンシエルジュ
流体を解析・可視化するソフトをNAGASEが開発提供

セグメント概況 加工材料

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 樹脂の販売はOA等の電機・電子業界向けの需要回復を受けて増加
 - ・ 製造業は東拓工業の工業用ホース・土木用パイプの販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益が増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	(億円) 当期見通し (修正後) 進捗率	前期実績
売上高	当期	535	546			1,082	2,049	53%
	前期	485	536	477	485	1,022	1,985	
	増減率	10.2%	1.9%			5.9%	3.2%	
売上総利益	当期	65	65			130	255	51%
	前期	54	61	61	57	116	236	
	増減率	20.1%	5.4%			12.3%	8.0%	
<利益率>	当期	12.3%	11.9%			12.1%	12.4%	
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.4%	11.9%	
製造	当期	12	12			25		
	前期	11	12	14	11	23	49	
商社	当期	53	52			105		
	前期	43	49	47	46	93	186	
営業利益	当期	15	19			35	59	60%
	前期	10	15	16	11	25	53	
	増減率	56.3%	26.7%			38.5%	11.0%	
<利益率>	当期	3.0%	3.6%			3.3%	2.9%	
	前期	2.1%	2.9%	3.4%	2.3%	2.5%	2.7%	
製造	当期	2	2			4		
	前期	1	2	3	0	4	8	
商社	当期	13	17			30		
	前期	8	13	12	10	21	44	

【注力施策】

ポリマーグローバルアカウント事業部

- ▶ グローバルブランドオーナーの生産拠点の変遷に伴い、メキシコ・インド等の注力エリアにリソースシフト
 
- ▶ 環境素材(自社品・他社品)の取扱い拡大
- ▶ グローバルでの事業運営の効率化、組織体制の最適化



製造子会社: 東拓工業の工業用ホース・土木用パイプ

セグメント概況 電子・エネルギー

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 半導体材料の販売は市況の緩やかな回復を受け増加
 - ・ 変性エポキシ樹脂の販売は、生成AI市場の旺盛な需要を受けハイエンドサーバー用半導体向けが好調に推移し、増加
 - ・ ハイエンドのスマホ・タブレット等の電子デバイス向けの材料販売は需要回復を受け増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	(億円)	進捗率
						当期見通し (修正後)	前期実績	
売上高	当期	400	398			799	1,542	52%
	前期	355	356	375	360	712	1,447	
	増減率	12.8%	11.7%			12.3%	6.5%	
売上総利益	当期	95	97			193	386	50%
	前期	77	86	85	92	163	342	
	増減率	23.7%	13.4%			18.3%	12.8%	
<利益率>	当期	23.8%	24.5%			24.2%	25.0%	
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	23.0%	23.6%	
製造	当期	33	35			68	131	
	前期	27	31	33	39	58		
商社	当期	62	62			125	210	
	前期	50	54	52	53	104		
営業利益	当期	27	32			59	108	55%
	前期	17	24	21	25	42	88	
	増減率	55.5%	30.9%			41.3%	22.0%	
<利益率>	当期	6.9%	8.1%			7.5%	7.0%	
	前期	5.0%	6.9%	5.6%	6.9%	5.9%	6.1%	
製造	当期	7	9			17	34	
	前期	4	8	8	11	13		
商社	当期	19	22			42	54	
	前期	12	15	12	13	28		

【注力施策】

エレクトロニクス事業部

- ▶ 半導体市場における商材の拡充
 - ・ 国内生産の拡大を踏まえた事業拡大
 - ・ 欧米やインド等での事業拡大
- ▶ 最先端電子デバイス向けビジネス開発

先進機能材料事業部

- ▶ ナガセケムテックスの製品を最先端半導体向けに販売拡大（LMCが最先端半導体向け封止材として圧倒的なシェアを誇る）
- ▶ a-SMCで次世代半導体向け封止材のデファクトスタンダードを目指す
- ▶ 半導体向け現像液の回収・再生事業の拡大



LMC: Liquid Molding Compound



a-SMC: Advanced Sheet Molding Compound

セグメント概況 モビリティ

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 売上総利益の約半分を占める樹脂の販売は、自動車生産台数の減少があったものの、円安や市況上昇等の影響により増加
 - ・ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	(億円) 当期見通し (修正後) 進捗率	前期実績
売上高	当期	321	338			660	1,326	50%
	前期	311	337	353	319	649	1,321	
	増減率	3.1%	0.4%			1.7%	0.4%	
売上総利益	当期	40	43			83	165	51%
	前期	34	39	41	37	73	152	
	増減率	17.8%	9.9%			13.5%	8.3%	
<利益率>	当期	12.5%	12.9%			12.7%	12.4%	
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.4%	11.5%	
製造	当期	—	—			—	—	
	前期	—	—	—	—	—	—	
商社	当期	40	43			83	152	
	前期	34	39	41	37	73	152	
営業利益	当期	9	12			22	38	60%
	前期	6	10	11	7	17	36	
	増減率	49.7%	23.3%			33.5%	5.1%	
<利益率>	当期	3.1%	3.8%			3.4%	2.9%	
	前期	2.1%	3.1%	3.3%	2.3%	2.6%	2.7%	
製造	当期	—	—			—	—	
	前期	—	—	—	—	—	—	
商社	当期	9	12			22	36	
	前期	6	10	11	7	17	36	

【注力施策】

モビリティソリューションズ事業部

- ▶ 電動化関連素材・部品の取扱いを一層拡充
- ▶ 北米・インド等の成長市場へのリソース投下促進



車載インバーター用金属インサート成型部品



株式会社アテックスとメキシコで
電動化部品等の製造会社を合併で設立

セグメント概況 生活関連

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ ナガセヴィータは化粧品素材の販売が海外向けの不調により減少したものの、食品素材の販売が好調に推移し全体として販売が増加
 - ・ 中間体・医薬品原料の販売が増加
 - ・ Prinovaグループは食品素材販売の増加に加え、市況が下落していた前年同期と比べて売上総利益率が向上
- ▶ 営業利益は、売上総利益が増加したものの、Prinovaグループの貸倒引当金の計上や人件費等の一般管理費増加により、減益

四半期実績		第2四半期				累計実績	当期見通し (修正後)		進捗率
		1Q	2Q	3Q	4Q		前期実績	(億円)	
売上高	当期	728	744			1,473	2,894	51%	
	前期	723	673	693	687	1,396	2,777		
	増減率	0.7%	10.7%			5.5%	4.2%		
売上総利益	当期	168	173			342	667	51%	
	前期	156	145	163	168	301	634		
	増減率	8.0%	19.0%			13.3%	5.1%		
<利益率>	当期	23.2%	23.3%			23.2%	23.0%		
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%		
製造	当期	136	141			278			
	前期	125	114	133	131	240	505		
商社	当期	32	31			64			
	前期	30	30	30	37	61	129		
営業利益	当期	15	4			19	42	47%	
	前期	27	13	19	20	40	80		
	増減率	△ 44.5%	△ 65.7%			△ 51.3%	△ 47.5%		
<利益率>	当期	2.1%	0.6%			1.3%	1.5%		
	前期	3.8%	1.9%	2.8%	3.0%	2.9%	2.9%		
製造	当期	11	2			13			
	前期	23	9	15	12	32	60		
商社	当期	4	1			5			
	前期	4	3	3	8	7	19		

【注力施策】

ライフ＆ヘルスケア製品事業部

- ▶ 自社製品の拡販に国内外で注力
- ▶ 海外グループ基盤・拠点間の連携強化によるクロスセルの拡充
- ▶ バイオ素材の拡充
(NVI※1、NBIC※2のバイオ由来素材の創出
例:発酵技術で量産化を目指すエルゴチオネイン)
- ▶ Prinovaグループの製造の拡大

※1 ナガセヴィータ

※2 ナガセバイオイノベーションセンター



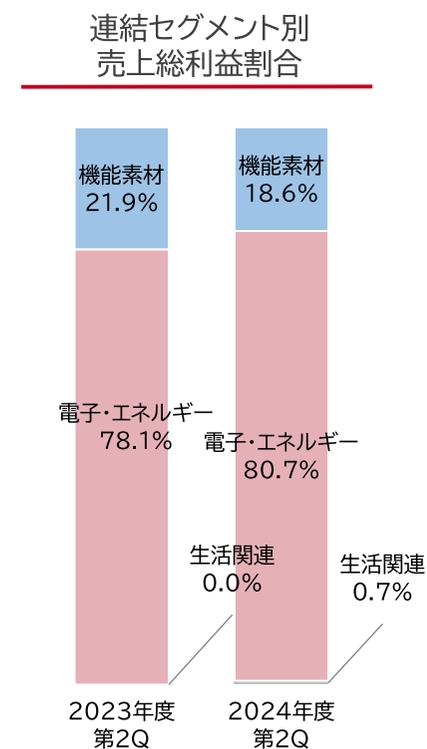
エルゴチオネインに期待される効果

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

主要製造子会社概況 – ナガセケムテックス –

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 変性エポキシ樹脂の販売は、生成AI市場の旺盛な需要を受けハイエンドサーバー用半導体向けが好調に推移し、増加
 - ・ ディ스플레이向けフォトリソ材料の販売は減少
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績							(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	第2四半期 累計実績	当期見通し (修正後)	進捗率
売上高	当期	66	64			130	259	50%
	前期	57	65	66	62	122	251	
	増減率	15.2%	△ 0.4%			6.9%	3.2%	
売上総利益	当期	20	20			41	85	48%
	前期	17	19	21	17	37	75	
	増減率	20.4%	3.3%			11.3%	13.1%	
<利益率>	当期	31.6%	31.5%			31.5%	33.0%	
	前期	30.2%	30.3%	32.0%	27.9%	30.3%	30.1%	
営業利益	当期	7	6			13	28	48%
	前期	5	7	8	0	13	22	
	増減率	43.8%	△ 22.9%			3.8%	25.7%	
<利益率>	当期	11.5%	9.4%			10.5%	10.9%	
	前期	9.2%	12.2%	12.6%	1.6%	10.8%	9.0%	



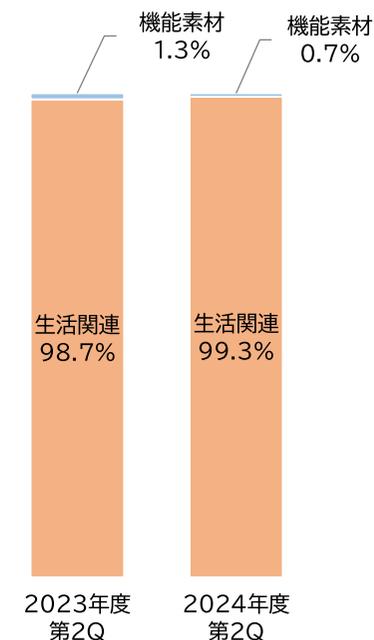
※ ナガセケムテックスの営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、利益の一部が商社へ計上されます

主要製造子会社概況 – ナガセヴィーター

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 食品素材の販売は国内外ともに増加
 - ・ 香粧品素材の販売は、最終需要地である中国における需要減少により、減少
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加はあったものの、人件費等の一般管理費の増加により、減益

四半期実績						第2四半期	(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計実績	当期見通し (修正後)	進捗率
売上高	当期	86	87			174	356	49%
	前期	89	80	89	84	170	344	
	増減率	△ 3.4%	9.0%			2.4%	3.7%	
売上総利益	当期	33	32			65	135	48%
	前期	34	28	32	30	62	126	
	増減率	△ 3.8%	13.9%			4.2%	7.2%	
<利益率>	当期	38.2%	36.9%			37.6%	38.0%	
	前期	38.4%	35.3%	36.6%	36.4%	36.9%	36.7%	
営業利益	当期	13	12			25	52	48%
	前期	16	10	14	11	26	52	
	増減率	△ 19.9%	20.5%			△ 4.5%	1.6%	
<利益率>	当期	15.3%	14.0%			14.6%	14.8%	
	前期	18.4%	12.7%	15.7%	13.4%	15.7%	15.1%	
のれん等償却費	当期	7	7			15	29	
	前期	7	7	7	7	15	30	
	増減率	0.0%	0.0%			0.0%	△ 3.4%	
償却費負担後	当期	5	4			10	23	44%
	前期	8	2	6	3	11	21	
営業利益	増減率	△ 37.2%	84.5%			△ 10.7%	8.7%	

連結セグメント別
売上総利益割合



※ ナガセヴィータの営業機能の一部を長瀬産業および販売子会社が担っており、利益の一部が商社へ計上されます

主要製造子会社概況 – Prinovaグループ –

- ▶ 売上総利益は主に以下の理由により、増益
 - ・ 食品素材販売において販売数量が増加し、売上総利益率も向上
- ▶ 営業利益は製造業における特定顧客の債権回収懸念による貸倒引当金の計上(約13億円)や人件費等の一般管理費増加により、減益

四半期実績						第2四半期 累計実績	(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q		当期見通し (修正後)	進捗率
売上高	当期	504	537			1,041	1,964	53%
	前期	516	473	476	472	989	1,937	
	増減率	△ 2.2%	13.5%			5.3%	1.4%	
売上総利益	当期	99	100			199	376	53%
	前期	87	82	95	96	169	361	
	増減率	14.0%	21.9%			17.8%	4.2%	
<利益率>	当期	19.7%	18.7%			19.2%	19.2%	
	前期	16.9%	17.4%	20.0%	20.3%	17.2%	18.6%	
営業利益	当期	13	0			13	32	42%
	前期	19	13	14	15	32	63	
	増減率	△ 31.7%	△ 96.7%			△ 57.6%	△ 48.1%	
<利益率>	当期	2.7%	0.1%			1.3%	1.7%	
	前期	3.8%	2.8%	3.1%	3.3%	3.3%	3.3%	
のれん等償却費	当期	6	7			13	27	
	前期	6	6	6	6	12	25	
	増減率	12.2%	13.5%			12.9%	5.2%	
償却費負担後	当期	6	△6			△0	5	—
営業利益	前期	13	6	8	8	20	37	
	増減率	△ 51.3%	—			—	△ 84.8%	

連結セグメント別
売上総利益割合



※ 2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんでした。適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

連結貸借対照表

▶ 投資有価証券は政策保有株式の売却(約32億円)や時価下落の影響により、減少

	2024年3月末	2024年9月末	増減額	主な増減
	(億円)			
流動資産	5,424	5,462	37	
（現金及び預金）	594	544	△49	
（売掛債権）	3,211	3,174	△37	
（棚卸資産）	1,479	1,588	108	
固定資産	2,498	2,504	6	
（投資有価証券）	762	708	△54	
資産の部合計	7,923	7,966	43	
流動負債	3,026	2,917	△109	
（買掛債務）	1,563	1,483	△80	
固定負債	883	932	49	長期借入金+66
負債の部合計	3,910	3,849	△60	
株主資本	3,128	3,147	19	
その他の包括利益累計額	812	899	86	為替換算調整勘定+143
非支配株主持分	72	70	△2	
純資産の部合計	4,013	4,117	104	
運転資本	3,127	3,279	151	
自己資本比率	49.7%	50.8%	1.1ppt	
有利子負債	1,669	1,684	14	
NET D/Eレシオ	0.27	0.28	0.01	

連結キャッシュ・フロー計算書

▶ 業績好調による四半期純利益の増加等により営業CFは119億円の収入

	(億円)	
	2023年度 第2四半期	2024年度 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	382	119
（税引等調整前四半期純利益）	148	230
（有形・無形資産償却費）	79	89
（運転資本の増減）	233	△88
（その他）	△79	△111
投資活動によるキャッシュ・フロー	△64	△108
（固定資産投資）	△82	△76
（その他）	18	△32
フリーキャッシュ・フロー	318	10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△366	△110
（自己株式取得による支出）	△66	△94
（配当金の支払い額）	△52	△50
（借入金・社債の増減）	△182	43
（その他）	△64	△8
換算差額	50	△9
現金及び現金同等物の増減額	2	△109

2024年度 通期業績見通し

- ▶ 以下の状況を踏まえ公表の通期業績見通しに変更はないが、セグメント別業績見通しを修正
- ▶ 半導体関連ビジネスは、市況の緩やかな回復に加え、生成AIの想定以上の需要増加を受け好調に推移
- ▶ 自動車関連ビジネスは、自動車生産台数がやや伸び悩む一方で市況の上昇や収益性の高い機能素材・機能部品の販売増加により好調に推移
- ▶ 樹脂販売は、OAやスマホ等の電機・電子業界向けが想定以上に需要回復したことにより好調に推移
- ▶ Prinovaグループの不調を主な要因としたフード関連ビジネスは通期でも回復見込めず
- ▶ 販売費及び一般管理費は数理差異の償却による退職給付費用の減少はあるが、事業の拡大もあり、全体として増加見込み
(退職給付の数理差異:2023年度 約9億円の費用、2024年度 約35億円の収益)

	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額	前期比
	(億円)			
売上高	9,001	9,400	398	104%
売上総利益	1,647	1,800	152	109%
<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt	—
販売費及び 一般管理費	1,341	1,435	93	107%
営業利益	306	365	58	119%
<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt	—
経常利益	305	352	46	115%
親会社株主に帰属 する当期純利益	224	280	55	125%
US\$レート (期中平均)	@ 144.6	@ 148.0	@ 3.4	円安
RMBレート (期中平均)	@ 20.1	@ 20.0	@ 0.1	円高

2024年度 セグメント別業績見通し（修正あり）

- ▶ 機能素材は塗料原料の販売増加、半導体業界向けの原料販売の増加に加え、カラーフォーマー事業の損益改善が想定以上に進んでおり上方修正
- ▶ 加工材料は主にOA等の電機・電子業界向けの想定以上の需要回復を受け、樹脂販売が堅調に推移しており、上方修正
- ▶ 電子・エネルギーは半導体業界向け材料販売の好調に加え、ナガセケムテックスのハイエンドサーバー用半導体向けの変性エポキシ樹脂販売が想定以上に好調に推移していることにより上方修正
- ▶ モビリティは自動車生産台数の減少はあるものの、市況の上昇を受けた収益性の改善に加え、機能素材・機能部品の販売好調を受け上方修正
- ▶ 生活関連はPrinovaグループの食品素材販売は堅調に推移している一方で、貸倒引当金の計上や製造業が想定以上に不調に推移していることにより下方修正

(億円)

	2023年度 実績	2024年度 見通し (修正前)	2024年度 見通し (修正後)	増減額	増減率
機能素材	売上高	1,468	1,550	38	2%
	売上総利益	281	306	20	7%
	<利益率>	19.2%	19.7%	0.8ppt	—
	営業利益	61	68	18	26%
	<利益率>	4.2%	4.4%	1.0ppt	—
加工材料	売上高	1,985	2,072	△23	△1%
	売上総利益	236	248	7	3%
	<利益率>	11.9%	12.0%	0.5ppt	—
	営業利益	53	55	4	7%
	<利益率>	2.7%	2.7%	0.2ppt	—
電子・エネルギー	売上高	1,447	1,493	49	3%
	売上総利益	342	377	9	2%
	<利益率>	23.6%	25.3%	△0.2ppt	—
	営業利益	88	86	108	26%
	<利益率>	6.1%	5.8%	1.2ppt	—
モビリティ	売上高	1,321	1,387	△61	△4%
	売上総利益	152	160	5	3%
	<利益率>	11.5%	11.5%	0.9ppt	—
	営業利益	36	32	38	19%
	<利益率>	2.7%	2.3%	0.6ppt	—
生活関連	売上高	2,777	2,897	△3	△0%
	売上総利益	634	710	△43	△6%
	<利益率>	22.8%	24.5%	△1.5ppt	—
	営業利益	80	94	42	△55%
	<利益率>	2.9%	3.2%	△1.8ppt	—
その他・全社	売上高	1	1	0	0%
	売上総利益	0	△1	1	—
	営業利益	△13	30	32	7%
連結合計	売上高	9,001	9,400	—	—
	売上総利益	1,647	1,800	—	—
	<利益率>	18.3%	19.1%	—	—
	営業利益	306	365	—	—
	<利益率>	3.4%	3.9%	—	—

2024年度 主要製造子会社の業績見通し（修正あり）

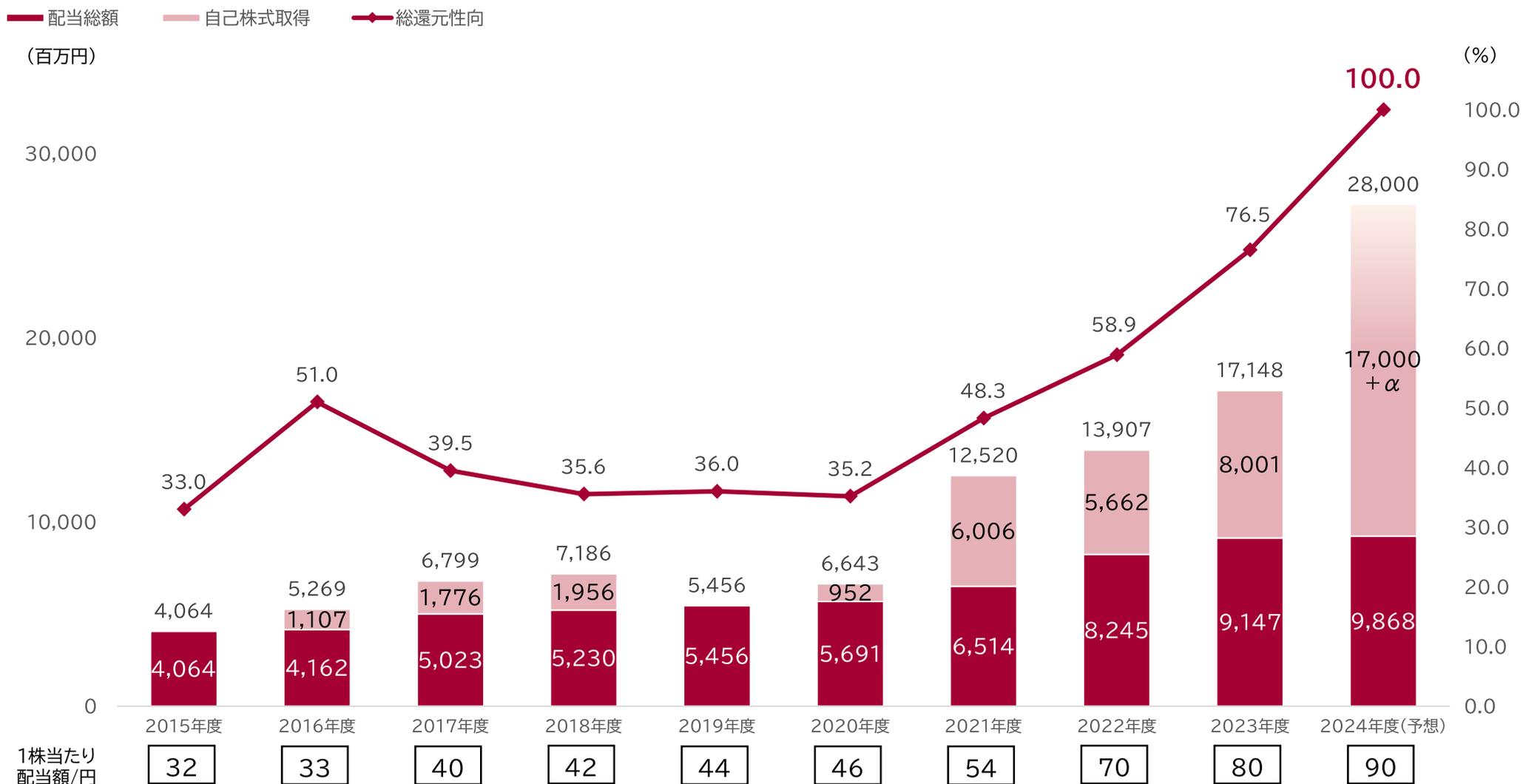
- ▶ ナガセケムテックス：ディスプレイ向けフォトリソ材料およびモバイル機器向け変性エポキシ樹脂の販売が想定以上に減少したものの、生成AI市場の旺盛な需要によるハイエンドサーバー用半導体向け変性エポキシ樹脂が想定以上に好調に推移していることを受け、上方修正
- ▶ ナガセヴィータ：食品素材、国内向け香粧品素材の販売は好調も、海外向けの香粧品素材の販売が需要減少により想定以上に減少したことにより下方修正
- ▶ Prinovaグループ：食品素材の販売は数量が増加したものの、貸倒引当金の計上や製造業の不調により下方修正

		(億円)				
		2023年度実績	2024年度見通し (修正前)	2024年度見通し (修正後)	増減額	増減率
ナガセケムテックス	売上高	251	261	259	△2	△1%
	売上総利益	75	80	85	5	7%
	<利益率>	30.1%	30.7%	33.0%	2.4ppt	-
	営業利益	22	26	28	1	5%
	<利益率>	9.0%	10.3%	10.9%	0.6ppt	-
ナガセヴィータ	売上高	344	369	356	△13	△4%
	売上総利益	126	140	135	△4	△3%
	<利益率>	36.7%	37.9%	38.0%	0.1ppt	-
	営業利益	52	57	52	△4	△7%
	<利益率>	15.1%	15.4%	14.8%	△0.6ppt	-
	のれん等償却費 償却費負担後営業利益	30 21	29 27	29 23	0 △4	- △15%
Prinova グループ	売上高	1,937	2,091	1,964	△126	△6%
	売上総利益	361	421	376	△45	△11%
	<利益率>	18.6%	20.2%	19.2%	△1.0ppt	-
	営業利益	63	81	32	△48	△60%
	<利益率>	3.3%	3.9%	1.7%	△2.2ppt	-
	のれん等償却費 償却費負担後営業利益	25 37	27 54	27 5	0 △48	- △89%

※ Prinovaグループの2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんが、適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

株主還元状況

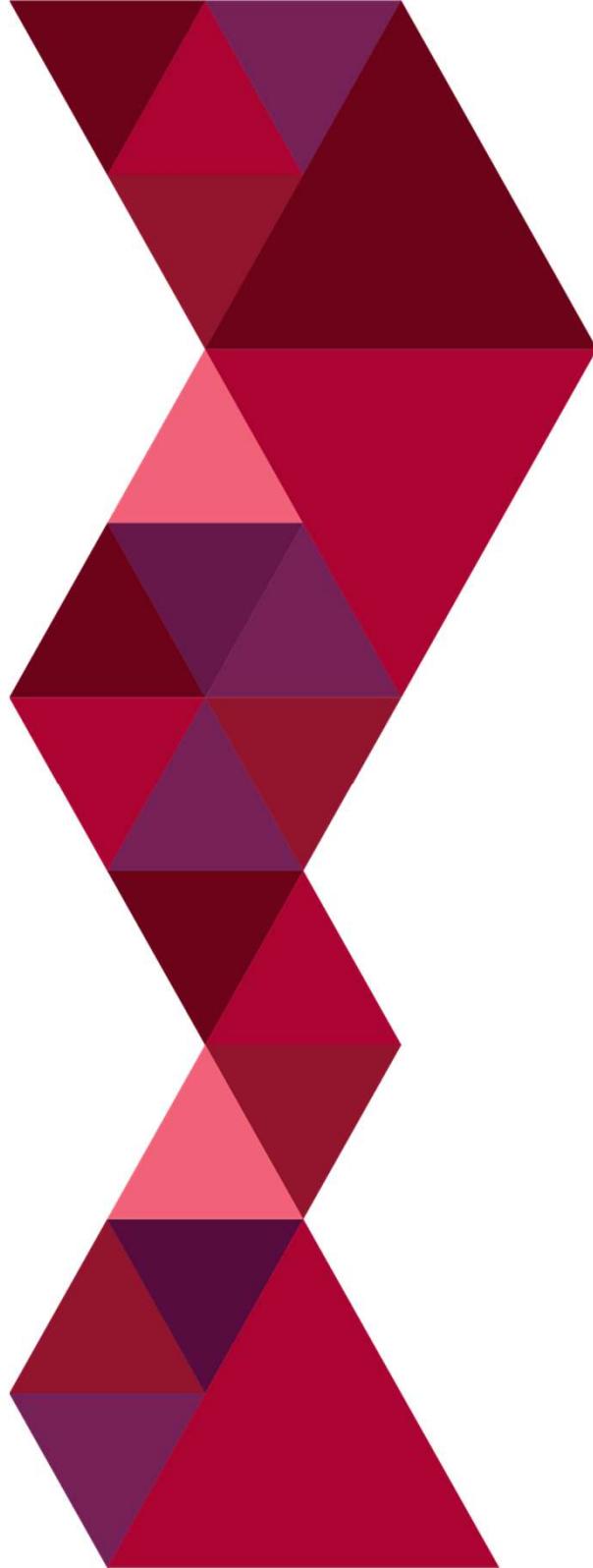
- ▶ 2024年度の1株当たり配当金は中間配当を当初予定の40円から5円増配し、中間45円、期末45円の年間90円を予定(15期連続増配見通し)
- ▶ 2024年度、2025年度**総還元性向100%**の方針に変更なし
- ▶ 2024年5月に決議した100億円の自己株式取得は、10月で完了
- ▶ 2024年11月に70億円の自己株式取得を決議(期間:2024年11月~12月を予定)



※ 2024年度の期末配当金は、2025年6月開催予定の第110回定時株主総会に附議予定です。

中期経営計画 ACE 2.0について

■ 中期経営計画 ACE 2.0 基本方針	P26
■ 将来に向けた成長戦略	P27
■ 半導体分野の取組み	P28
■ ライフサイエンス分野の取組み	P29
■ フード分野の取組み –Prinovaグループの状況–	P30
■ グローバルサウスの取組み	P31
■ 改善領域 2024年度上期の進捗	P32
■ 2024・2025年度のキャッシュアロケーション	P33
■ 効率性の追求 –株主還元–	P34
■ サステナビリティ関連の取組み	P35
■ サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し	P36



中期経営計画 ACE 2.0 基本方針

ビジネスをデザインするNAGASEへ

ACE 2.0“質の追求”

A（主体性） C（必達） E（効率性）の mindset を持ち、
NAGASEの持続的な成長を可能にするため、

すべてのステークホルダーが期待する“想い”を具体的な“形”（事業・仕組み・風土）として創出する
(質) (追求)

収益構造の変革

“ありたい姿”に向けた収益基盤の構築

- ① 収益性・効率性の追求
 - ・ 全社規模の事業入替と資源再配分の実施
- ② 既存事業の強化
 - ・ グローバリゼーションによる事業機会の拡大
 - ・ 製造業の生産性向上と技術革新による付加価値の拡大
- ③ “持続可能な事業”の創出

企業風土の変革

“ありたい姿”に向けたマインドセット

- ① 経済価値と社会価値の追求
 - ・ サステナビリティマインドの醸成と財務／非財務情報のモニタリング徹底
- ② 効率性の追求
 - ・ 資本効率性への意識の深化
 - ・ コア業務の生産性の向上
- ③ 変革を推進する人財の強化

変革を支える機能

- ① DXの更なる加速
- ② サステナビリティの推進
- ③ コーポレート機能の強化

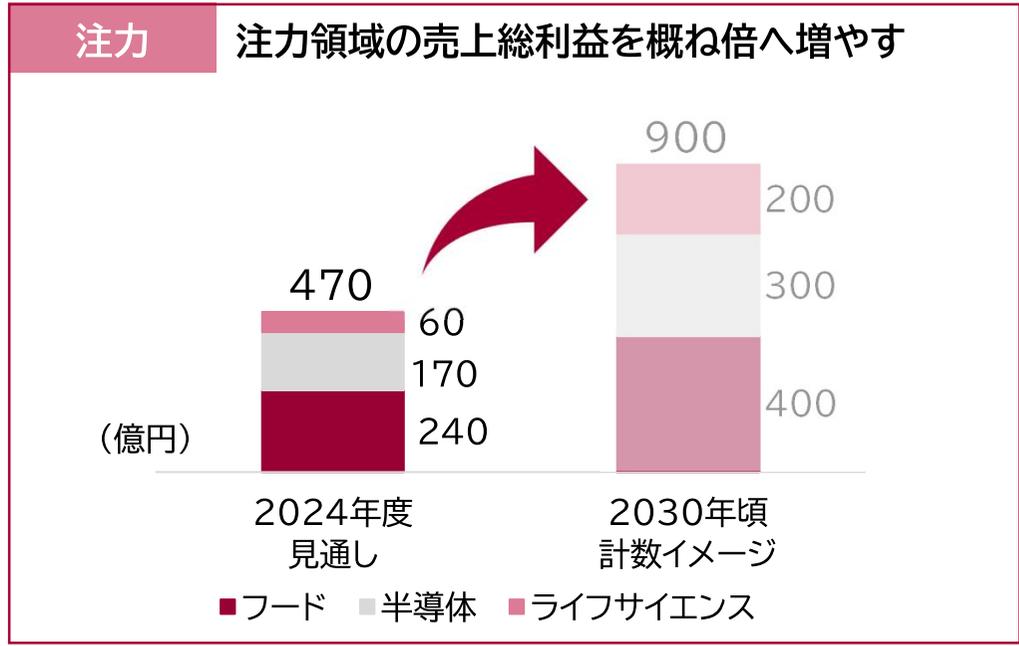
将来に向けた成長戦略

注力領域である製造機能(フード・半導体・ライフサイエンスの3分野)に積極投資し、
中長期的な利益規模・利益率の向上を狙う

**注力・育成領域に対する潜在的投資額
約800億円 (M&Aや設備投資)**



- 基盤** 注力領域と育成領域の強化に繋がるキャッシュと付加価値の高い情報を獲得
- 育成** 将来の収益源となる分野で、新たなチャレンジを進める



改善 損失を削減(詳細はP.32)

半導体分野の取組み

注力領域は最先端半導体向け封止材でデファクトスタンダードを確立し、
基盤領域は商権を拡大

育成 将来の収益源 研究開発(バイオ) 新規事業(新製品等) 新規エリア (グローバルサウス)	注力 特定分野の 製造機能 フード 半導体 ライフサイエンス
改善 不採算事業 減損懸念事業	基盤 商社機能 半導体 フード 化学工業
	電気機器 モビリティ ライフ サイエンス

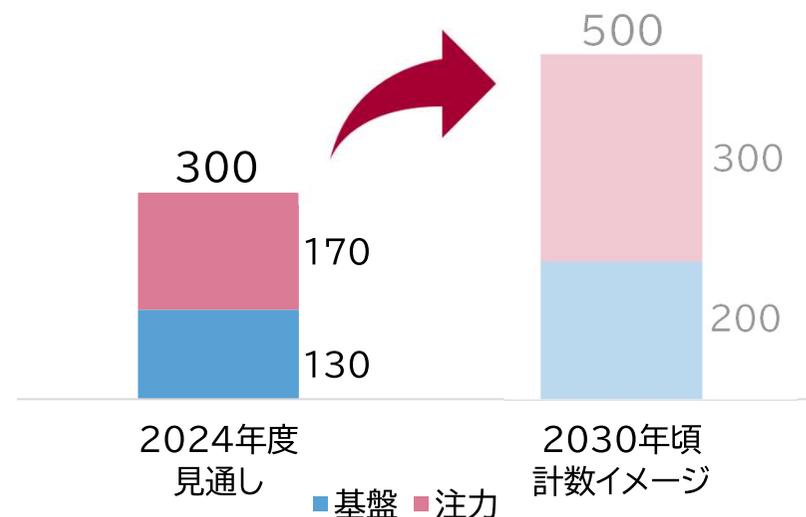
注力領域

- 最先端半導体用の封止材(LMC/a-SMC)で、デファクトスタンダードのポジションを確立
- 現像液を回収・再生するシステムで環境に配慮した提案を推進、拡大

基盤領域

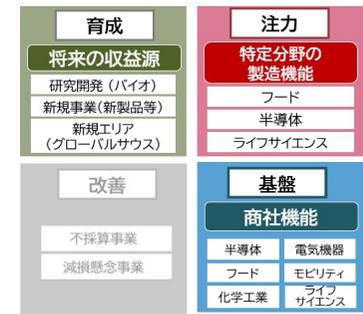
- Rapidus株式会社の取りまとめ業者などで商権をさらに拡充、海外展開にも活用
- 化学品取扱(運送・保管、輸出入)のノウハウ、サプライチェーンマネジメントの強化

半導体事業の売上総利益 (億円)



ライフサイエンス分野の取組み

M&Aで診断薬事業が加わることで決定
育成領域で新しい素材を開発し事業拡大を目指す



注力領域

・ナガセヴィータ及びナガセケムテックスの**素材・技術**で医薬品、化粧品領域での事業を拡大
 (AA2G[®]、プルラン、トレハロースSG、ヘスペリジンなど)

基盤領域

・各国の**法規制**に対応する体制を整え、グローバルでのネットワークを拡充

育成領域

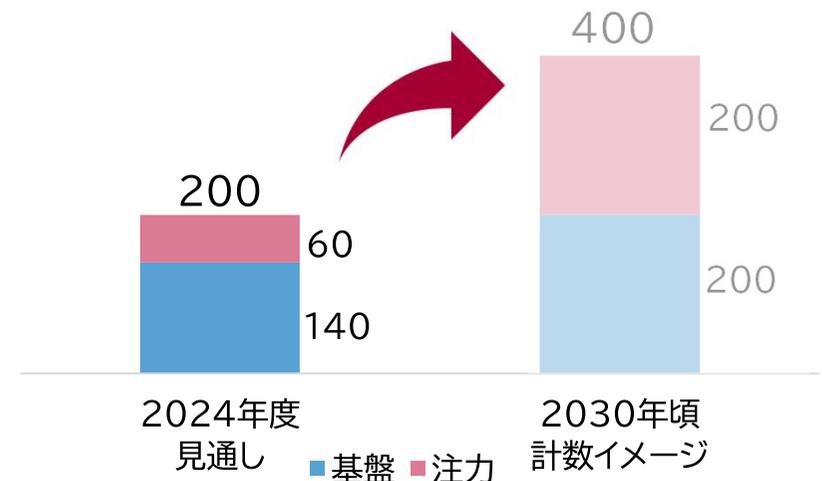
・発酵技術を用いた**エルゴチオネイン**の量産を開始

旭化成ファーマより診断薬事業などを買収

注力	大仁医薬工場での酵素の製造事業を獲得
基盤	商材の拡充、ブラジル・ASEAN・インドで同社品を展開、海外販売で事業成長を狙う
+	
育成	NAGASEグループの医薬関連事業を集約

2030年頃に売上総利益40億円規模を目指す

ライフサイエンス分野の売上総利益 (億円)



フード分野の取組み - Prinovaグループの状況 -

スポーツニュートリション市場の拡大基調は変わらず
早期にユタ工場の利益貢献体制の整備を進める



製造業

- ・主要顧客がシェアを落としており利益貢献には時間を要するが、新たに広がる製品群で**新規顧客獲得**を進める
- ・健康志向の消費者など**新たなカテゴリー**の開拓も取り込む

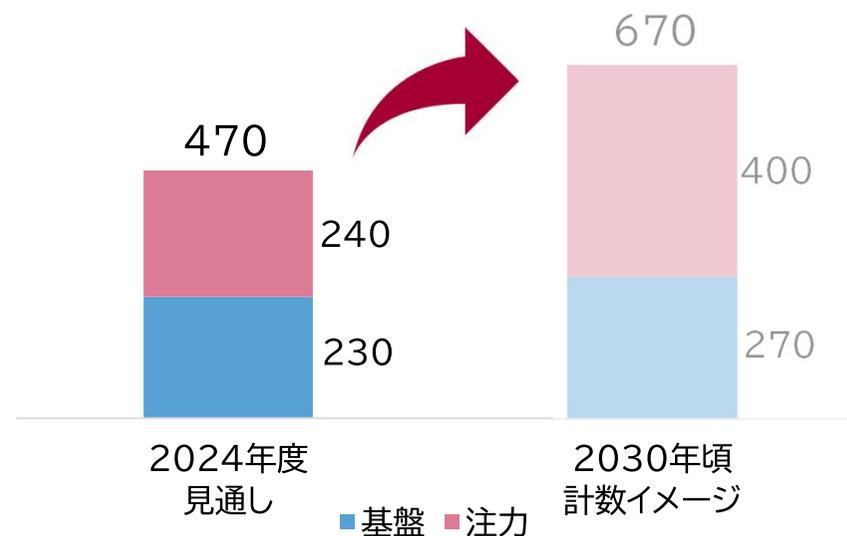
新たな取組みを進める製品群

 Pea Protein 大豆アレルギー対応品	 Beauty 健康維持美容と健康	 GREENS ビタミン等の栄養素
---	---	---

商社業

- ・食品素材における**独自の調達力**を活かし、北米、欧州に続き**南米、アジアへの事業拡大**を進める

フード分野の売上総利益 (億円)



グローバルサウスにおける取組み

インド、メキシコ、ブラジル、インドネシアの4カ国で
新たなビジネスを早期に収益化し、ポートフォリオの転換を加速

育成 将来の収益源 研究開発(バイオ) 新規事業(新製品等) 新規エリア (グローバルサウス)	注力 特定分野の 製造機能 フード 半導体 ライフサイエンス
改善 不採算事業 減損懸念事業	基盤 商社機能 半導体 フード 電気機器 モビリティ 化学工業 ライフ サイエンス

メキシコ

自動車業界で日系OEMや、電気・電子業界で日系メーカーや台湾EMSの進出が進む。株式会社アテックスと自動車電動化部品等の製造会社を合併で設立。

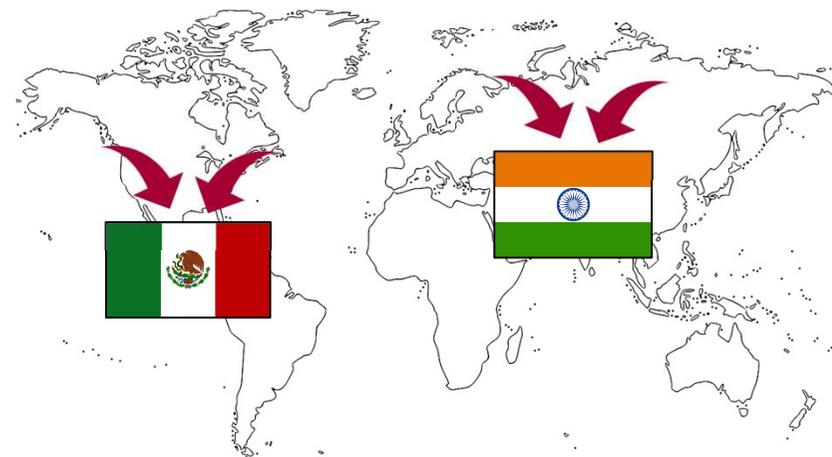
ATECS INSERT MOLDING MEXICO S.A. DE C.V.の設立

インド

製造業が拡大するインドにおいては、樹脂販売で人的リソース投入中。家電、スマホ、自動車、半導体 関連事業の商権獲得。

中国、ASEANからインドへの製造拠点のアロケーションに対応する樹脂販売体制の拡充

進捗した2カ国



改善領域 2024年度上期の進捗

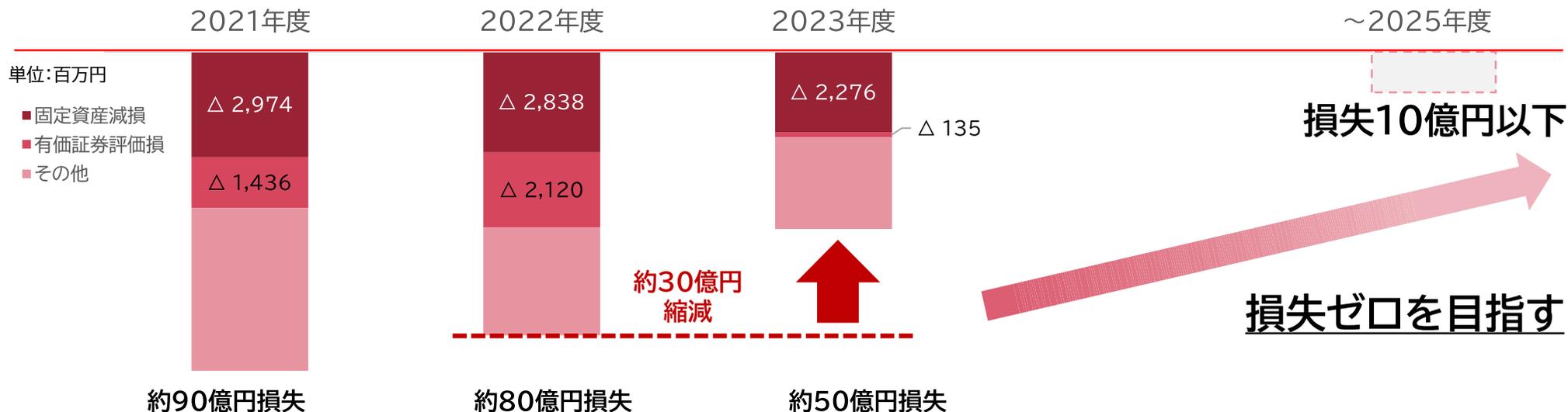
経営判断で速やかに成果を出せる領域として、ROIC改善に向け早々に着手

改善対象・取組み

1. 事業子会社の営業損失および関連会社の持分法損失
2. 減損損失懸念資産
3. 不採算取引

早期に改善プランを策定し、実行。改善が見込めないものは撤退検討
 減損リスクのある資産に対するモニタリングを強化し、減損をミニマイズ
 全件リストアップしモニタリング。改善が見込めないものは商権返上

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



カラーフォーマー事業: 米国・日本ともに大幅に営業損失を削減

- ▶ 米国は、製造販売拠点であるSOFIX LLCの生産を停止し会社清算を決定。2023年度の営業赤字は約11億円
 - ▶ 日本は、製造子会社の福井山田で不採算取引縮小により通期黒字化を目指す。2023年度の営業赤字は約4億円
- 計 約15億円

2024・2025年度のキャッシュアロケーション

有利子負債を活用し、成長投資と株主還元の双方を推進

キャッシュイン

調整後営業CF

- ▶ 営業利益に減価償却やR&D等の投資性の費用を戻し入れ
- ▶ 運転資金の増減は加味せず

資産入替

- ▶ 政策保有株の縮減等

有利子負債の調達拡大

- ▶ 格付け維持が可能な範囲で調達

調整後
営業CF
800～
900億円

資産入替
100
～200億円

借入
1,100億円

企業価値
最大化

成長投資
1,500億円

株主還元
600～
700億円

キャッシュアウト

成長投資

- ▶ 数百億円規模のM&Aは逐次検討
- ▶ 注力領域3分野の特定機能の強化、ミッシングパーツを獲得
- ▶ R&D 毎年約60億円 等

継続増配・総還元性向100%

- ▶ 純資産は4,000億円前後でコントロール

効率性の追求 – 株主還元 –

- ▶ 2024年度の1株当たり配当金を、当初予定の85円(前期比+5円)から、90円(前期比+10円)へ増額
- ▶ 総還元性向100%の達成に向け、追加の自己株式取得70億円(期間:2024年11月~12月を予定)を決議

2024年度の配当を増額



株主還元方針 変更なし



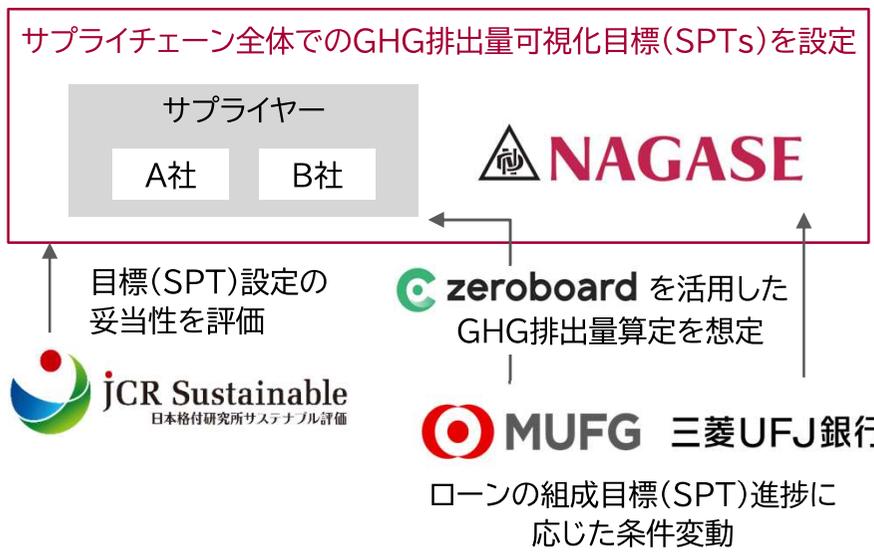
株主還元の実績及び見通し

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 見通し	2025年度 見通し
1株当たり配当金(円)	54	70	80	90	—
(中間+期末)	(24+30)	(30+40)	(40+40)	(45+45)	—
自己株式取得(億円)	60	56	80	100+70+α	—
総還元性向(%)	48.3	58.9	76.5	100%	100%

サステナビリティ関連の取組み

サステナビリティ・リンク・ローン実行

契約締結日:10月28日
 借入実行日:10月31日
 期間:10年
 アレンジャー/エージェント:(株)三菱UFJ銀行
 貸出人:16社
 組成金額:200億円
 利率:設定したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)の達成状況に応じて変化



SBT※コミットメントレター提出

- ・長瀬産業株式会社は2024年9月にSBTの短期目標に関する認定取得に向け、SBTイニシアチブに対し、コミットメントレターを提出
 - ・SBT認定取得に取り組み、パリ協定と整合性した目標を設定し、サプライチェーンにおける脱炭素を推進
- ※SBT(Science Based Targets)パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標

評価機関		最高値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
FTSE		5.0	1.2	1.9	2.7	3.5	4.2
MSCI		AAA	BB	BB	BBB	A	A
CDP	Climate Change	A	C	B	B	A-	A-
	Water	A	C	B	A-	A	A
	Forest	A	C-	C	C	B	B
	Supply Chain Engagement	A	D	B	B	A	A
Ecovadis [NAGASEグループ]		Platinum (100)	(41)	Bronze	(43)	Bronze	Silver

サステナビリティの実現に向けたマテリアリティの見直し

- ▶ ACE 2.0策定時に設定したマテリアリティを2024年9月に更新
- ▶ マルチステークホルダー表記へと変更すると同時に、簡潔な文言へと変更することで全従業員の意識への定着を図る
- ▶ 従業員エンゲージメントとカーボンニュートラルに関する指標に加え、事業系の非財務目標の設定を検討中

従来

NAGASEグループのマテリアリティ及び関連するSDGs

	提供価値	マテリアリティ (重要課題)	関連するSDGs
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 安全で働きやすい職場環境 従業員が明るく、楽しく、生き活きと仕事出来る環境 従業員とその家族が誇りを持って語れる企業集団 	【多様な人材の活用、職場環境と企業文化の提供】 <ul style="list-style-type: none"> 先進技術を用いた生産性向上や多様な人材の活用 グループとして多様な背景を持つ従業員が、お互いを尊重し、活性化し合う職場環境の提供と企業文化の醸成 	 
取引先	<ul style="list-style-type: none"> 取引先を深く理解し、幅広い可能性を追求できる協力関係の構築 バリューチェーン全体で取組むべき課題や社会課題に対するソリューション 	【先端技術を活用した新たな価値創造】 <ul style="list-style-type: none"> 先端技術と取引先ネットワークを活用した新たな価値創造 複雑性が高まる取引先課題の真因理解に基づく、幅広い解決手法の提供 	 
社会・消費者	<ul style="list-style-type: none"> 遵法・倫理経営を実践し、地域社会の発展に貢献 サプライチェーンに関わる人々の権利、健康、快適さに配慮 安心・安全で温もりのある社会実現に向けた製品・サービス 	【社会・環境課題の解決とグローバル化】 <ul style="list-style-type: none"> 気候変動、食料・水不足等、安心・安全を脅かす課題の解決 食の安全の確保・向上にバイオやAI等の先端技術を活用して貢献 先進国を中心とした高齢化進行による健康維持に対する需要の充足 グローバル化の加速、地域毎の社会課題解決への寄与 	   
株主	<ul style="list-style-type: none"> 透明性の高い経営体制と適時・適正な情報開示による信頼と安心 経済価値・社会価値の向上を両立し、継続的な事業創造による企業価値の最大化 	【コーポレート・ガバナンス】 <ul style="list-style-type: none"> 透明性の高いコーポレート・ガバナンスを確立 経済価値と社会価値の両立による持続的な企業価値向上 	

大きな影響を及ぼす外部環境変化

- 人財の多様化
- 人口動態変化
- 気候変動と資源不足
- 食糧・水不足
- グローバリゼーション
- 天然資源枯渇
- 気候変動と資源不足
- 地政学リスク
- 人権意識の高まり

● 従業員エンゲージメント向上



● 脱炭素社会への貢献



● 健康寿命延伸への貢献



● サプライチェーンの持続性への貢献



● 資源循環社会への貢献



● 透明性の高いコーポレート・ガバナンス



NAGASE | Delivering next.

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年11月7日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

再掲: 資本コストや株価を意識した経営 –2023年度期末 決算説明会資料より–

企業価値向上に向けた方針

中期経営計画 ACE 2.0で掲げる成長戦略、財務・資本戦略の遂行

現状の課題認識

- 2007年度以降PBRは1倍割れの状態
- 株主資本コストは投資家との対話から8.0%以上
- 純資産に対する政策保有株式の割合が約15%

取組み事項

収益性・効率性

- ROIC経営の浸透: 売上総利益率および資本回転率の向上
- 改善領域における不採算事業・不採算取引を削減
- 政策保有株式の段階的な削減

資本コスト

- 株主還元拡充: 2年間限定で総還元性向100%
- 成長投資における負債の活用

IR活動

- 積極的な情報開示、投資家との対話を拡充

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移 —その他・全社配賦前—

- ▶ 2024年度より、その他・全社のうち長瀬産業単体の一部を除く全社共通経費を各事業部に配賦する運用を開始
- ▶ 全社共通経費を配賦し、各事業部の収益性をより実態に近い形で把握できる体制へと変更
- ▶ 本ページでは参考情報としてその他・全社配賦前の四半期推移を記載

(億円)

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
連結合計						
売上高	当期	2,392	2,417		4,809	9,400
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	4,501
	増減率	6.8%	6.9%		6.8%	4.4%
売上総利益	当期	457	463		921	1,800
	前期	387	401	425	432	788
	増減率	18.3%	15.3%		16.8%	9.3%
<利益率>	当期	19.1%	19.2%		19.2%	19.1%
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	18.3%
営業利益	当期	107	103		210	365
	前期	69	75	85	75	144
	増減率	54.3%	37.1%		45.4%	19.2%
<利益率>	当期	4.5%	4.3%		4.4%	3.9%
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.4%

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
加工材料(ポリマーグローバルアカウント事業部)						
売上高	当期	535	546		1,082	2,049
	前期	485	536	477	485	1,022
	増減率	10.2%	1.9%		5.9%	3.2%
売上総利益	当期	65	65		130	255
	前期	54	61	61	57	116
	増減率	20.1%	5.4%		12.3%	8.0%
<利益率>	当期	12.3%	11.9%		12.1%	12.4%
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.4%
営業利益	当期	20	23		43	80
	前期	13	19	20	15	32
	増減率	50.2%	20.8%		32.8%	17.6%
<利益率>	当期	3.8%	4.3%		4.0%	3.9%
	前期	2.8%	3.6%	4.2%	3.1%	3.4%

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
モビリティ(モビリティソリューションズ事業部)						
売上高	当期	321	338		660	1,326
	前期	311	337	353	319	649
	増減率	3.1%	0.4%		1.7%	0.4%
売上総利益	当期	40	43		83	165
	前期	34	39	41	37	73
	増減率	17.8%	9.9%		13.5%	8.3%
<利益率>	当期	12.5%	12.9%		12.7%	12.4%
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.4%
営業利益	当期	13	16		30	57
	前期	9	13	14	10	23
	増減率	44.6%	17.2%		28.3%	15.5%
<利益率>	当期	4.3%	4.8%		4.6%	4.3%
	前期	3.0%	4.1%	4.2%	3.4%	3.7%

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
機能素材(機能化学品事業部/スペシャリティケミカル事業部)						
売上高	当期	405	388		794	1,588
	前期	364	357	375	370	721
	増減率	11.4%	8.7%		10.0%	8.2%
売上総利益	当期	88	81		170	326
	前期	64	68	73	75	132
	増減率	37.8%	19.9%		28.5%	15.9%
<利益率>	当期	21.8%	21.1%		21.4%	20.5%
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	18.4%
営業利益	当期	37	31		68	121
	前期	15	21	25	24	36
	増減率	140.7%	46.9%		86.3%	40.2%
<利益率>	当期	9.1%	8.0%		8.6%	7.6%
	前期	4.2%	6.0%	6.7%	6.6%	5.9%

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
電子・エネルギー(エレクトロニクス事業部/先進機能材料事業部)						
売上高	当期	400	398		799	1,542
	前期	355	356	375	360	712
	増減率	12.8%	11.7%		12.3%	6.5%
売上総利益	当期	95	97		193	386
	前期	77	86	85	92	163
	増減率	23.7%	13.4%		18.3%	12.8%
<利益率>	当期	23.8%	24.5%		24.2%	25.0%
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	23.6%
営業利益	当期	34	38		73	143
	前期	23	31	27	31	54
	増減率	50.6%	24.4%		35.6%	26.2%
<利益率>	当期	8.7%	9.7%		9.2%	9.3%
	前期	6.5%	8.7%	7.3%	8.8%	7.6%

四半期実績	第2四半期				当期見通し (修正後)	前期実績
	1Q	2Q	3Q	4Q		
生活関連(ライフ&ヘルスケア製品事業部)						
売上高	当期	728	744		1,473	2,894
	前期	723	673	693	687	1,396
	増減率	0.7%	10.7%		5.5%	4.2%
売上総利益	当期	168	173		342	667
	前期	156	145	163	168	301
	増減率	8.0%	19.0%		13.3%	5.1%
<利益率>	当期	23.2%	23.3%		23.2%	23.0%
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%
営業利益	当期	21	9		31	71
	前期	32	19	24	26	51
	増減率	△ 34.8%	△ 48.2%		△ 39.8%	△ 31.2%
<利益率>	当期	2.9%	1.3%		2.1%	2.5%
	前期	4.5%	2.9%	3.6%	3.9%	3.7%

※各費用に以下のいずれかの基準を用いて7事業部に配賦

①各事業部に均等配賦

②各事業部の事業規模(売上高、売上総利益)に応じて配賦

2021年度～2023年度の主要なキャッシュイン・アウト実績

(億円)

キャッシュ・イン	2021年度	2022年度	2023年度	3カ年累計	キャッシュ・アウト	2021年度	2022年度	2023年度	3カ年累計
調整後営業CF※	525	363	476	1,364	配当・自己株式取得	124	139	178	442
政策保有株式売却等による収入	92	96	71	260	DX・研究開発等への投資	71	68	78	218
運転資本の減少	—	—	330	330	運転資本の増加	631	200	—	831
有利子負債の増減による収入	401	—	—	401	有利子負債の増減による支出	—	25	234	260
その他収入	7	9	9	26	その他の成長投資等	156	173	188	518
					その他支出	25	20	76	121
合計	1,026	469	888	2,384	合計	1,008	628	756	2,392

※運転資本の増減、費用計上されているDX・研究開発費等の影響を控除した営業CF